

令和6年度 茨田北中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

校内秩序を正しく維持することができており、ほとんどの生徒がまじめに学校生活を送っている。
全国学力・学力学習状況調査の結果では、国語は市平均より1ポイント上回ることができた。
平均無回答率において、国語は全国平均を下回っているが、数学は全国平均を上回っている。問題に取り組む姿勢に課題がみられる。
一部の生徒において、学習意欲に課題があり、基礎学力の定着が不十分である。そのため、学習の定着度に関して、二極化の傾向が見られる。
家庭での学習については、宿題においてしっかりとできている生徒が増えてきているが、未提出の生徒も若干おり、学校でのフォローと家庭へのさらなる啓発が必要である。
〈国語〉全国と比較して、「言葉の特徴」「情報の扱い方」「読むこと」の領域において高い値を示している。
〈数学〉全国と比較して、「図形」の領域において高い値を示している。
生徒質問紙において、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対する肯定的な回答の割合が、全国、大阪市よりも上回っている。ただ、「人に役に立つ人間になりたいと思いますか」「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や希望を持っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、全国、大阪市より下回っている。自尊感情が全国、大阪市と比較して、若干低い傾向にある。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

平均点において、国語・社会・理科で府平均を上回ることができた。平均無回答率では、国語・数学・理科・英語で府平均を下回ることができた。
〈国語〉府と比較して、「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域において、高い値を示している。
〈社会〉府と比較して、「地理的分野」「歴史的分野」の領域において、高い値を示している。
〈数学〉府と比較して、「関数」の領域において、高い値を示している。
〈理科〉府と比較して、「生命」「地球」の領域において、高い値を示している。
〈英語〉府と比較して、「書くこと」領域において、高い値を示している。

○大阪市英語力調査(GTEC)

〈成果〉
CEFRA1レベル相当以上の割合は、52.90%であった。また、大阪市平均と比較して、「話すこと【スピーキング】」の技能において、高い値を示している。
〈課題〉
「読むこと【リーディング】」「聞くこと【リスニング】」「書くこと【ライティング】」の技能の向上に努める。

【今後に向けて】

学習規律を確保しつつ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。特に、各教科の知識や技能、見方、考え方を今まで以上に働かせながら学習することで、それらを使って自分の考えを整理したり、組み立てたりして、自分の考えを表現できる力をつけていく。
TT、習熟度別授業、少人数授業をより積極的に取り組み、補充学習などの個に応じたきめ細やかな指導に心がけ、基礎・基本的な学習内容の定着を徹底する。
ICT機器を有効に活用した指導方法の充実に努める。
生徒会、生徒専門委員会活動を通して、生徒自ら進んで、学校生活の改善に取り組める環境の充実に努める。
授業、学校行事など、学校教育活動全体を通して、普段からお互いを認め合い協力しあえる集団作りに努める。
「道徳」「特別活動」を充実させ、「自己肯定感」「自己有用感」を高めるとともに、集団や社会の一員として果たす役割を考えさせる。
教員の授業力の向上を目的とした研究授業の充実を図る。